

# 源流の四季

第44号(2012年1月)

冬

Winter



発行所／多摩川源流研究所 〒409-0211 山梨県北都留郡小菅村1911  
TEL 0428(87)7055 FAX 0428(87)7057  
<http://www.tamagawagenryu.net>  
E-mail:b-nakamura@npokusuge.jp

発行責任者／中村文明

協力／多摩川源流協議会(甲州市・奥多摩町・丹波山村・小菅村)  
多摩川源流観察会 NPO法人多摩源流こすげ

印刷／(株)ケイ・トワー・ワン



小菅村橋立のカケヅク畠 (撮影 中村文明)

## Contents 目次

降矢村長新春インタビュー	2~3
もみじ橋景観ワークショップを実施	4
各地区景観懇談会を開く	4
マコモタケが人気メニュー	5
多摩川源流大学のすべて!	6
第2回全国源流サミットに350名参加	7
「ミューゼス研究会の活動紹介」報告	7
ありがとう小菅村 ありがとう自然	8

# 降矢村長新春インタビュー

## 村民体育館の完成間近

中村 あけましておめでとうござります。昨年は、東日本大震災がおこるなど大変な年でしたね。

村長 あけましておめでとうござります。新年に当たり日頃から小菅村のむらづくりにご支援、ご協力を頂いている村民の皆さん、多摩川流域の皆さんに心から感謝をしたいと思います。確かに、昨年は大震災や台風による大きな災害が起り、大変な苦難の年でした。



降矢英昭小菅村長(村長室)

た。被災された方々の一日も早い復旧・復興をお祈りし、私たちも可能な支援を続けたいと考えています。

中村 いよいよ小菅村体育館(中学校体育館)の完成が間近になりました。幾つかお聞きしたいのでですが、先ず経過を教えて下さい。

村長 実は平成17年の耐震診断に始まります。診断の結果は立て替えしなければならない建物である、耐震補強工事の対象にならないかなり危険度の高い建物であること

が判明しました。

中村 当時は財政赤字で手が出せなかつたわけですね。

村長 建物が古いこともあって長年の懸案でしたが、耐震診断の結果をふまえ、早急な建て替えが求められていきました。財政健全化も進み、平成21年、22年と財政調整基金や公共施設整備基金への積み立てでできましたので、今年度事業で村民体育館の建設を決意しました。

中村 なるほど、準備が整つたわけですね。ところで、村民体育館建設に込める村長の思いを聞かせたい。

中村 視察に来られた方々にどうぞこれを見て下さいという製品がない、公共施設がない。これではいけないと強く感じました。

中村 視察に来られた方々にどうぞこれを見て下さいという製品がない、公共施設もない。ちゃんと建設されたわけですね。

中村 県府へも何回も何回も足を運びながら相談にのつてもらい、横内知事や林務部長に県が所有する基金を小菅村に重点的に配分してほしいと繰り返し働きかけました。

中村 屋根や壁にも工夫が施されているようですね。

## 率先して小菅の木を利用すること

村長 小菅村は、内閣府の支援を

受け、平成20年、21年に「地方の元気再生事業」に取り組みました。「元気再生プロジェクト」の重点の一つがスギやヒノキなど木材資源の流域での活用でした。柏江市や川崎市で小菅の木を利用した取り組みが進みました。小菅に視察に来られた方々にどうぞこれを見て下さいという製品がない、公共施設がない。これではいけないと強く感じました。

中村 視察に来られた方々にどうぞこれを見て下さいという製品がない、公共施設がない。これではいけないと強く感じました。

中村 県府へも何回も何回も足を運びながら相談にのつてもらい、横内知事や林務部長に県が所有する基金を小菅村に重点的に配分してほしいと繰り返し働きかけました。

中村 屋根や壁にも工夫が施され

## 木づかい文化のシンボルとして

村長 財政難で延びましたが、こ

こでやるからには小菅の木を使つた体育館を造りたい。「元気再生プロジェクト」で木材の活用を掲げ、木づかい文化の普及を訴えてきましたので、そのシンボルとして小

菅の木を利用した体育館を建てようと思ったわけです。

中村 山梨県への働きかけもやられたと聞きましたが。

中村 県府へも何回も何回も足を運びながら相談にのつてもらい、横内知事や林務部長に県が所有する基金を小菅村に重点的に配分してほしいと繰り返し働きかけました。

中村 屋根や壁にも工夫が施され



建設する小菅村体育館(12月15日)

村長 小菅の木を流域に推奨するには、先ず小菅村が率先して

小菅の木を利用することが大事です。平成21年には、小学校の体育館の改修の際に小菅のヒノキで内装しました。平成22年に

は保育所の床、壁、廊下、イスや机なども小菅のヒノキで作り替えました。保育園のこどもや

保母さんは好評でしたが、評判を聞きつけてやつてこられた

村内の高齢者の方々からも「やっぱりいいね」と声をかけられました。

中村 そして小菅村体育館がで

きあがるわけですね。

中村 予算規模はどれくらいですか。

村長 総事業費が3億3千万円です。県からの支援やふるさと納税寄付金などで完成にこぎ着けました。日頃小菅村が推進している源

流の村づくりに対する県の評価と理解があり、さほど財政的な重荷にならずに済みました。

中村 体育館のデザインも斬新ですね。体育館建設に当たつてどんな注文をされましたか。

村長 教育委員会を中心に、最初から一生懸命やっている人たちの気持ちが反映するように現場に委ねています。ただ、小菅村の自然や風情というか、環境にあつたものを造つてほしいという気持ちは伝えてあります。

中村 屋根や壁にも工夫が施され



小菅村のカエデ(11月7日)

## デザインに 日本の伝統的な配色法

## 財政健全化へ第一歩

村長 屋根や壁に市松模様が使われています。注文したわけではありませんが、たまたまデザインが出来上がったときに市松模様の屋根や壁だったということです。日本の伝統的な配色法で高級感があり気に入っています。

中村 流域の皆さんにも是非見てほしいですね。

村長 そうですね。小菅村の木をふんだんに使つて造りましたので、「さあこれを見て下さい」と胸を張つて見てもらえると思います。

事業でもっとも地元材を使つてもらい、山林所有者にお金が回るようになればいいし、そうすれば森林経営が持続できるのではないか、そんなきっかけになればいいと思います。

中村 この体育館建設には、小菅の木がより一層活用される道を切り開きたいとの思いが込められています。

村長 村の山林はこれからまだ間伐が必要です。森林作業道(路網)も入れなければならぬ。もともと研究しながら村の思いをなれるような政策が打ち出されることがあります。

### 村に大勢の 応援団が生まれ

中村 なるほど。ふるさと納税寄付金など村内外の方々からの協力も広がりましたね。

村長 今村が困っている、困つ



クリーン作戦(松姫峠への道)

中村 どんな手法で健全化を達成されたのですか。

村長 財政健全化というと、ただ歳出を削減することを考えますが経費の削減ばかりでは困りますので、国の100%の補助金を獲得し、村

を活性化する諸事業や高規格救急車や消防自動車の無償貸与、保育所の改修など様々な公共事業を手がけ、当面の課題を解決しながら村民が不便を感じないで財政健全化が実現できたと自負しています。

中村 貴重なお話有り難うございました。

ているなら何とかしようと多くの方々に呼びかけて頂き多額のふるさと納税寄付金を頂きました。又

ボランティアでクリーン作戦や花を植えて村を綺麗にしようと活発に活動して頂くなど村を美しくしようと大勢の応援団ができました。

中村 小菅の景観を良くしようと「花と緑の郷づくりの会」の方々の活動は活発ですね。

村長 そうですね。この間、村は財政難であったにもかかわらず、近隣に比べてみて、小菅村は大いに元気な村だったんではないかと、

山梨県のほうでも評価を頂いているようです。

中村 財政健全化が達成されましたが、これからどんな変化が期待

されていますか。

村長 財政健全化といふと、ただ動きが良くなるとは、どういう意味ですか。

中村 村長、今おっしゃった村の動きが良くなるとは、どういう意味ですか。

村長 端的に言うならば、財政面で余裕が生まれ自由に使える予算の範囲が広がるということですね。村民のニーズにも迅速に応えることが可能になる。村を元気にするために必要なことが数多く実行できるということです。

中村 つまり、今までと違つて、村民のニーズや期待に応えながら、村の未来を切り開く施策を実行できる財政状況に近づいたといえますね。

村長 そうだと思います。特に「教育に過疎はない」ですから、子どもを育てる環境を良くしていきたい。教育施設の充実や子育てに関わる方達の環境を良くしていきたいと思います。

中村 貴重なお話有り難うございました。



村長も一緒にクリーンクリーン(鶴姫周辺)



クリーンの先頭に女性の会

でできますか。

村長 いや、まだ満足出来る段階ではありません。財政健全化の目安である「実質公債費比率」を11%か

12%台までもつていいたい。そうすれば、村の動きがもつと良くなります。

中村 12%台までもつていいたい。そうすれば、村の動きがもつと良くなります。

# もみじ橋景観ワークショップを実施



小菅村は、平成17年、山梨県から景観行政団体の認定を受け、山梨県からの指導と支援のもと平成23年度に小菅村源流景観計画を策定することになった。小菅村は、源流景観計画策定に関する業務をNPO法人多摩源流こすげ（担当多摩川源流研究所）に委託。NPO法人多摩源流こすげは、小菅村源流景観計画策定委員会（木下正之委員長）を5月に立ち上げた。NPOと源流景観計画策定委員会は、景観学習会、先進地視察、景観資源調査、源流大学と連携してピューポイント体験ワークショップ、各地区景観懇談会などに取り組んだ。12月17日には、もみじ橋の景観ワークショップを実施し、小菅村の良好な景観づくりに向けた活動が急ピッチで展開されている。

## 新しい橋の名前は 「もみじ橋」に

田元地区平山で建設が進む新しい橋の名前が「もみじ橋」と決まりた。この橋は、国道139号線沿いのモミジを保存するため、新しく建設されたもので、源流景観計画策定委員会が周辺整備を検討する中で、保存されたモミジを中心としたモミジを中経緯から小菅のとおり

村に「橋の名前は『もみじ橋』に」と推薦、村はこの案を了承して「もみじ橋」と決まったもの。

景観ワークショップ当日は、景観委員会の委員、事務局、神谷先生など14名が参加、木下委員長が「小菅村の新しい名所にしたい」

訪れる方がみんな足を止めるような場所にするために、皆さんのアイデアを出してほしい」と挨拶した。小菅村役場の黒川源流振興課長が「新しい橋の建設に伴い、カーブした国道部分の約百メートルが小菅村に移管されることになりを計画するうに整備したらよいか、提案してほしい」と訴えた。（提案は下記



もみじ橋景観ワークショップの様子（12月17日）

## 各地区

### 景観懇談会を開く

「古いサインを新しいものに変えるべきだ」「天神山の眺望をきくようになりたい」「間伐して明るい森に変えたい」「どんな小さいことでもいいから必ず実現してほしい」「できたことをみんなに知らせてほしい」など沢山の意見がよせられた。そのなかの、長作の川の整備や田元の御所車の展望点づくりは、早速村が取り上げ改善したもので住民に喜ばれている。

### ワークショップ参加者から、次のような発言があった。

- 「駐車場に植栽スポットを設けてほしい」
- 「小菅村にある山取りのモミジ・カエデを全種類植えて育ててほしい」
- 「橋の欄干にモミジの四季の変化が分かるプレートを飾ってほしい」
- 「旧道の部分は車の乗り入れ禁止にしてくつろげる空間にしてほしい」
- 「桃の木沢のこんこんと流れる湧き水を活かしてほしい」
- 「車イスの通れる歩道をつくったらどうか」
- 「ガードレールは木製のもので色は周辺の自然に調和するものにしてほしい」
- 「対岸の山を整備し、健康な森にして景観を良くしてほしい」
- 「見栄えのいい東屋を造ってほしい」
- 「快適なトイレがあるといい」
- 「道路上の大きな木が落下しないよう安全対策がいる」
- 「電柱を地中化してほしい」
- 「もみじ橋からすぐに川に降りて、ぐるりと散策できる道がほしい」
- 「歩道は、覆土するかどうか専門家に諮り歩きやすくしてほしい」
- 「街灯とスポットライトでモミジを照らしてほしい」
- 「橋桁の色も周辺に調和する色にしてほしい」
- 「もみじ橋とモミジ公園が連続して広がりのある空間にできないか」

など沢山の意見やアイデアが出された。



景観懇談会・長作地区（10月3日）

# レストラン「ゼルコバ」訪問記 マコモタケが人気メニュー

「マコモタケを小菅村の特産品にしたい」とマコモ生産者の源流百姓の会(古菅丁会長)が、NPO法人多摩源流こすげ(望月徹男事務局長)の協力の下、今年も生産・販売・普及に東奔西走し、今年、山梨県笛吹市一宮町に得意先が出現した。そのお得意さんであるレストラン「ゼルコバ」を10月下旬に訪問した。(文責 中村文明)



レストラン「ゼルコバ」

梨フレンチをお楽しみ下さい。  
と紹介されている。

マネージャーでソムリエの佐野さんは「マコモタケをぼぼ丸ごとの形でシェフが料理をしています。やはり見た目も盛りつけが大事なので、そのまま出るとお客様が驚くんですよ。」と柔らかい口調で語りかける。

## マコモそのものを出すのがシェフの挑戦

創立された山梨でも老舗のワインメーカーのひとつである。三代目社長の木田茂樹氏は「最高品質へのこだわりは創立以来今日まで受け継がれている。格式と風格のあるワインをつくり続けて伝統、これからも日本のワイン文化に輝きを与える光でありたい。」と語る。

続けて佐野さんは「これは明らかにマコモタケというものを味わってもらいたいというシェフの意図で作っていると思う。実際にメニューを開発してもらつてティステイニングした印象だと、食材の旬を迎えると味がしつかりしていくので、樽でねかせたワインとあわせるとおいしく感じる、ワインが食材のおいしさを引き出せるなと感じる。」

## すごい評判で可能性のある食材

食事が終わつた頃、橋之口シェフがインタビューに答えてくれた。

橋之口シェフは「山梨のお酒もレベルが上がつてるのでうちの食材と合わせると、非常に良く合います。小菅のマコモをこういう形でお出しするようになつたのは10月のメニューからです。すごい評判がいいです。1ヶ月間余りで80キロから90キロぐらい使わせていただいているでしょうか。来年はもう少し、200キロぐらいは

やっぱりそのものをどんどん出してくるというシェフの挑戦とあります。地元の人もマコモタケを食べて、山梨にもこういうものがあるんだと再発見する感動がある。

今の時期の王道はマコモそのものの味を引き出した調理法で出した方が私はおいしく食べられると思う。」と佐野さんは言葉を結んだ。いいよマコモタケの料理がテーブルに並んだ。本当にマコモの形そのものが皿に盛られていた。マコモを口に運ぶとこれまでに味わつたことのないおいしさが口中に広がっていく。この料理なら毎年食べたくなる。このマコモタケ料理は、この味が知れ渡れば必ずファンが増えると感じた。

橋之口シェフから「小菅村はマコモを育てるのに適しているんですか。」と尋ねられたので、「水がいいからです。水源の稜線にはずっとブナ林があつて見事な広葉樹の森から育まれた水がマコモの畑に流れています。太陽もしつかり受けて自然の豊かさや水のおいしさをそのままマコモが体現してくれていると思います。」と答えた。



マコモタケの料理

## 歴史と伝統に輝くレストラン

甲府盆地の東端に位置する笛吹市一宮町の一角に、こんもりとした神社森がひときわ目を引くという地元の由緒ある氏神様である。その隣に有名なワイン醸造所のルミエールがある。明治18年に

歴史と伝統のあるルミエール直営のレストラン「ゼルコバ」が平成22年にオープンした。庭園からレストランを見守るように寄り添つて立つ樹齢900年のケヤキ(フランス語でゼルコバ)がレストランの名前になつてている。ホーミページで「フランスの三つ星レストランで修行したシェフが、山梨産の食材の味を守りながら贊沢なフランス料理に仕立てた『山

食事が終わつた頃、橋之口シェフがインタビューに答えてくれた。橋之口シェフは「山梨のお酒もレベルが上がつてるのでうちの食材と合わせると、非常に良く合います。小菅のマコモをこういう形でお出しするようになつたのは10月のメニューからです。すごい評判がいいです。1ヶ月間余りで80キロから90キロぐらい使わせていただいているでしょうか。来年はもう少し、200キロぐらいは

いくんじゃないでしょうか。」と今年の手応えを嬉しいことに来年に繋いでくれた。

橋之口シェフは、「マコモはやはり油とかの相性がいいんです。だからベーコンとかチーズとかが合います。可能性のある食材ですよ。後は売り方でしようね。見せ方もあるでしょう。若い力といいよいよマコモタケの料理がいいです。」とアドバイスして下さった。



レストラン「ゼルコバ」

笛吹市一宮町南野呂624  
0553-47-0207

# 多摩川源流大学のすべて!

～小菅で村人と若者が共に学び成長する軌跡～

連載3回目の今回は、「源流大学の講師」をテーマに、源流大学誕生期から実習を支える住民講師についてご紹介していきます。(文責 石坂真悟)



地域の作業も学生の力と協動作業

## 住民講師とは

「住民講師」とは「小菅に住んでいる住民の方で、源流大学の実施する住民講師養成講座に参加し修了した方」とし現在では80名近い住民が登録されています。住民講師養成講座では、「源流大学とはどういうものか」「源流大学が目指すもの」「学生との接し方」など簡単な講義と学生も交えたワークショップを行っております。

## データベースによる 得意分野の管理

住民講師の得意分野・カテゴリー(農業・林業・伝統芸能・自然解説など)や居住地区、参加実習履歴などは一目で分かるように事務局にて、データベース化し管理しています。このようにデータベース化し管理することで、実習内容ス化することで、実習内容に適した住民講師をすぐに検索でき、また、実習終了時に実習参加履歴を入力することで、実習内容の偏りを発見したり、実習内容の検討を行ったりするのに役立てています。

## 住民講師制度の効果 ～その2 住民のやる気～

住民講師側の効果として学生への対応や指導への蓄積ができ、より効率的・効果的な実習を組めるようアドバイスがもらえる様になつたことがあります。この他にも講師の中には、新しく作物を作ることに挑戦したり、学生が来る時用に作業の手順を考えたりと講師陣のやる気や期待が徐々に感じられるようになっています。

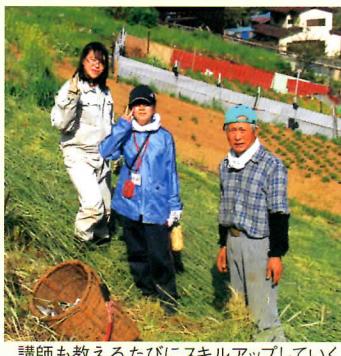
この住民講師を「現地実習アドバイザー」として源流大学の実習やプログラムなどの決定、スケジュール作成など事務局と共に活動していくことで、実習がより小菅の風土や生活・住民に馴染む方向へ進みます魅力的な地域独自の源流大学へと展開していくものと期待されます。

業を手伝ってくれた学生にお礼の気持ちを込めて、地元の煮物、漬物などをだしてくれ、作業やら昔の村の生活やらを話してくれているためです。山村地域の現状など大学の授業でしか聞いたことのない学生にとっては、その何気ない交流が新鮮であり感動を呼ぶのです。

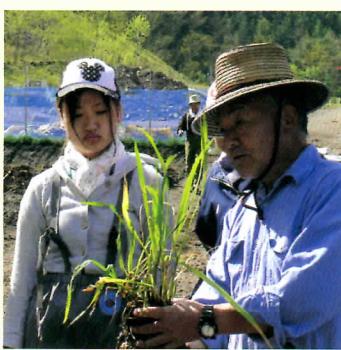
## これからの住民講師制度

今までの源流大学の実習は、他所から来た人材が実習内容を決め、そこにふさわしい住民講師を登用し、実習を実施する形をとっていました。この形は、外部人材による地域の資源を発見し活用する「よそ者視点による地域コーディネート」と同じと言えます。しかし5年間事業を実施し各住民講師も経験を積んだことで、実習内容の提案や源流大と他村民との繋がるパイプ役などを担つて頂ける住民講師の「核」になる講師が生まれつつあります。

この住民講師を「現地実習アドバイザー」として源流大学の実習やプログラムなどの決定、スケジュール作成など事務局と共に活動していくことで、実習がより小菅の風土や生活・住民に馴染む方向へ進みます魅力的な地域独自の源流大学へと展開していくものと期待されます。



講師も教えるたびにスキルアップしていく



なぜこの作業か?  
その原点を教えることも大切



手技を覚えるには“見よう見まね”プラス“話術”



学生の満足度は“どれだけ地域の人と関わったか”に左右される

# 第2回全国源流サミットに 350名 参加

「地域を・人を・未来をつなぐ」をテーマに第2回全国源流サミットが、10月21日～23日、岡山県新庄村で開催され、新庄中学校体育館で開かれた22日の全体サミットには全国各地から350名が参加した。

10月21日、新庄村ふれあいセンター大ホールの全国源流の郷協議会による首長サミットには、地元新庄村、高知県津野町、奈良県天川村、川上村、長野県根羽村、木祖村、山梨県道志村、小菅村、群馬県みなかみ町の代表が出席、隆矢英昭会長の挨拶、地元の笛野寛茂幸先生が源流の役割と課題についてアドバイスした。その後、事



第2回全国源流サミット(岡山県新庄村)

22日 の全体サミットでは、実行委員長の笛野寛村長が「私たちの地域は、水でつながっていることを自覚し、源流に光を当てて、これから源流の役割についてお互に考え、話し合える場にしよう」と挨拶、全国源流の郷協議会の隆矢会長、石井正弘岡山県知事、国土交通省水管理・国土保全局河川環境課館専門官がそれぞれ挨拶した。続いて旭川流域ネットワークの竹原和夫世話人が流域のユニークな活動を報告、パネルディスカッションでは「歴史と文化の水をつなぐ」をテーマに活発な意見交換が行われた。

務局から8月に開かれた幹事会の意見や協議を受けて、(1)より効果的な源流再生に関する政策を練り上げるため、政府、有識者、源流の郷が一体となつた「源流再生政策学習会」(案)を今年度に開催する(2)来年10月の第3回全国源流サミットまでに成案をまとめ、サミットで全国民に向けた源流再生に関する新しい政策を発表することなどを提案し確認された。

22日の全体サミットでは、実行委員長の笛野寛村長が「私たちの地域は、水でつながっていることを自覚し、源流に光を当てて、これから源流の役割についてお互に考え、話し合える場にしよう」と挨拶、全国源流の郷協議会の隆矢会長、石井正弘岡山県知事、国土交通省水管・国土保全局河川環境課館専門官がそれぞれ挨拶した。続いて旭川流域ネットワークの竹原和夫世話人が流域のユニークな活動を報告、パネルディス

務局から8月に開かれた幹事会の意見や協議を受けて、(1)より効果的な源流再生に関する政策を練り上げるため、政府、有識者、源流の郷が一体となつた「源流再生政策学習会」(案)を今年度に開催する。(2)来年10月の第3回全国源流サミットまでに成案をまとめ、サミットで全国民に向けた源流再生に関する新しい政策を発表するなど提案し確認された。

A group of approximately 15 people, mostly men in business attire, are standing in a row holding a long, light blue banner. The banner features the text '第2回全国源流サミット' (2nd National River Source Summit) and '全国源流の集い' (National River Source Gathering) at the top, and '第2回全国源流サミット 青野町' (2nd National River Source Summit, Aonoi Town) and 'でお会いしましょう！' (Let's meet!) in the center. The background is a large banner with a floral pattern and the same text. The setting appears to be an indoor hall with wooden beams and a stage.

全国源流の集いでアピールする津野町の代表(10月22日)

## 「ミユージス研究会の活動紹介」報告

小菅村内外の有志による地域づくり活動「ミューゼス研究会」では、村内の小さなエリアに焦点をあて

紹介することで、村を訪ねた方々  
がこの地域で体験できるものを増  
やしていきたいと考えています。

そのような作業自体が、まさに地域を見つめることなのだと実感しています。魅力を見つければ見

現在、「ミューゼス研究会」では、トレインマップ（セルフガイドマップ）づくりを進めています。歴史や自然など地域資源について、マップを広げ、メンバーみんなで、あれやこれやと話をしながら、地

つけるほど、ぜひにこの宝を訪ねてくる人たちにも紹介したいという想いも強くなっています。

今回、最初に取りかかっているのは、小菅村役場を中心とした川池地区の「天神山（てんじんやま）」エリアで、ここは村人にとつ

団に情報をおとしていく作業は楽しくもあり、達成感もあります。また、小菅村観光協会やNPO

てはとても馴染みが深く、子ども  
の伝統行事を行つたり、山菜採り  
に行つたりという場所です。ここ

ある小さな山  
「山田山」の三代  
の時代の城  
は、現在は  
残っており、遺産の  
ました。  
この山田山は、現在  
の山田山の山の小町を記  
今日立ちこの  
かられます。

をとつかかりとして選んだ理由は  
この場所を世に残したいというメ

ンバーからの声があつたからです。完成は来春で、村内での配布やネット上で公開をする予定です。このようなトライレマップづくり

くりは継続して、エリア数を増やしていくたいと考えています。紹介したい自慢のエリアがたくさんあります。トレールマップを持つて、散策する方々のことをイメージしながら作成していると、サテ

ライトをこのようなトレインが結んでいくというエコミュージアムの構図も膨らんでいきます。



● 第3回全国源流サミット  
● 日時 10月19～21日  
● 場所 四万十源流・高知県

# ありがとう小菅村 ありがとう大自然



日本オフィスシステム株式会社の社会貢献活動「NOS百年の森」づくりが進展している。昨年は、春の新入社員研修と第9回ボランティア活動に続いて、11月15日に「第10回ボランティア活動」を実施した。10月のボランティア活動が大雨で中止になつたため、今回は参加者が30名を越える盛況ぶりであつた。参加者は、途中で長作の御嶽神社の巨樹・巨木の森を視察し、小菅村の新しい魅力にも触れるなど小菅村を丸ごと体験する新しい試みも行われた。

「NOS百年の森」のある今川森林団地では、地主の木下大吉さんが「毎回大勢の参加に感謝します。百年の森は確実によくなつています。怪我のないように今日も宜しく」と挨拶し、間伐作業に取りかかつた。今回は、間伐して枝払いした後、玉切りと搬出に力を入れたため、森づくりの作業の大変さを体験するとともに、「森が明るくなつた」「森全体が生き返つた様子」と継続したボランティア活動の成果に参加者から喜びの声が上がつた。

## 参加者の感想紹介

### 人間には自然と接する機会が必要

■ 初参加では御座いましたが正

直申しまして「出席して良かった」

の一言で御座います。大自然の中、

汗を流し、木を切り、NOS社の

管理職の方と同じ目線でお話でき

たこと等々。社会貢献・自然・会

社の社交の場として個人的にも非

常にプラスになつたと思ひます。

「小菅村の印象」は、都心とは違つ

たやさしいオーラに包まれ非常に癒される空間・環境がある場所だと思います。やはり人間には自然と接する機会が必要と感しました。



「NOS百年の森」づくりの参加者(11月15日)



玉切りした木を搬出(11月15日)

### 森全体が生き返つてくる様子

■ 三回目でしたが、2009年

が初回だったのですが、だんだん

森全体に陽が当たるようになった

というだけでなく、明るい感じになつてくるのはうれしいですね。

最初はアウトドアでの作業そのものが珍しく楽しかったのですが、

今はむしろ、森全体が生き返つてくる様子が見ることができて、

目的意識が出来た気がします。小

菅村でやつてみたいことは、ぜひ所長の言つていた、沢登り、沢歩

きをして、妙見五段の滝を見に行

きたいですね。

### 丸太をかついで運ぶ作業はきつい

■ 今回の活動は、今まで一番

きつく感じました。より充実した

活動であったのではないかと思ひ

ます。伐採するのも大変ですが、

その後の枝落ちした丸太をかつい

で運ぶ作業は、本当にきついとい

うか、気合いが入るというか大変

楽しかつた。という事と次回も絶

対に参加をしたいと思いました。

大自然の中にいる事がこんなにも

気持ちいいものなのかと、40年生

きて初めて知つた気がします。次

の夏休みには、家族みんなで小菅

村に遊びに行き、大自然にふれて

みようかと思います。本当に参加

をさせて頂きまして、『ありがとうございます。小菅村、ありがとうございます』と

いう気持ちです。

### 陽のさしかたが違い達成感

■ 次回は春の植林を是非経験し

たいと思います。予想以上にハー

ドな伐採作業で気持ち良い汗を流

すことができました。伐採前と後

### 大勢集まれば大きな力になる

■ 本来なら植林から20年ぐらい

で間伐するところ、40年ぐらい経

過した木を切りましたので、切る

のも運び出すのも大変でした。倒

した木は3m間隔で切断し運びま

したが、見ると重そうに見えませ

んでしたが、2人掛かりでも根本

から2本は重くて運べませんでし

た。一人の力はたかが知れていま

すが、大勢集まれば大きな力にな

ではあきらかに陽のさしかたが違  
い、達成感のある作業でした。小  
菅の湯も、とても気持ち良かつた  
です。